

社会科学研究所紀要『社会学論集』執筆要領

原稿作成のためのテンプレートを社会科学研究所ウェブページ上に掲載していますので、ご利用ください。

(1) 原稿の構成について

原稿は、論文名、著者名、アブストラクト（和文400字／英文200words 以内。本文言語に合わせる）、本文、補論（オプション）、謝辞、引用文献とする。

掲載が可とされた場合、英文論文名（和文原稿の場合）、英語所属名、英語氏名、英文アブストラクト（和文原稿の場合。200 words 以内）を別途提出する。

(2) 見出し構成について

○見出しは「節」、「項」で構成。

○付番の種類の一

例) 1 ○○○… ←節タイトル
(1) ○○○… ←項タイトル

(3) 数字について

○本文内における数字の表記は、原則として以下の形式で統一する。k、0

・四桁以上の数字は、万、億、兆などの漢字を使用し、千の位の後に、（コンマ）は入れない。例) 1兆6350億5032万円

・ただし、図表内の数値には各位に、を入れてよい。

(4) 「注」について

○「注」は本文内の該当個所に付番して、当該ページ脚注に列挙する。

○本文中の「注」の表記は、以下のように記す。

例) ……が認識され¹、……検討された²。

(5) 「引用文献」について

○本文の次に「引用文献」を設ける。

○「引用文献」は、筆頭著者名が日本語の文献を先に、同外国語文献を後に配置し、筆頭著者の姓 (family name) の50音順（外国文献はアルファベット順他、辞書等の慣用的順番）とする。複数言語の著者名文献がある場合、「日本語著者名文献」「英語著者名文献」「中国語著者名文献」のようにまとめる。

○本文内での引用は、著者名と発行年を示す。文の引用などページを特定できる場合や著書の特定章の場合はそれらの情報も明示する。

例) ……本文……（熊沢 2006: 第3章）。

外国語文献の場合 ……本文……（Porter 2001: 32-35）

○ 文献の表記の仕方は以下を基準にする。

▶ 論文 [1] 著者名（出版年）「論文名」『雑誌名』第○巻 ページ。

[2] 著者名(出版年)「論文名」編者名『書名』章、出版社。

*英文の場合は論文名を“ ”で囲み、雑誌・書名をイタリックにする。

例) Maddox, R. F. (1930) “Banks Need Trust Department,” *American Bankers Association Journal*, Vol.23, 11-32.

▶ 著書 [3] 著者名（出版年）『書名』出版社。

*英文の場合は、著書名をイタリックにする。表記は半角。

例) Benston, G. J. (1990) *The Separation of Commercial and Investment Banking*, MacMillan Press.

▶ 邦訳書 ダイヤモンド, J. (楡井浩一訳) (2005) 『文明崩壊(上・下)』草思社 (Diamond, J. (2005) *Collapse: How Societies Choose To Fall or Succeed*, Viking.)

▶ インターネットからの引用

上記の形式に準じるが、更新されて原典に当たれなくなる可能性があるため、必ず末尾にアクセス日を記入すること。なお、個人作成HPからの引用は避ける。

例) 環境省・経済産業省ホームページ 『温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度について』 <http://www.env.go.jp/earth/ghg-santeikohyo/> (アクセス 2007/7/3) .

FAO *Yearbook of Fisheries Statistics 2003*; Food and Agriculture Organization, 2003, <http://www.fao.org/fi/statist/statist.asp> (Accessed October 15, 2005)

▶ 執筆者自身の文献を引用する場合「拙稿・拙著」を使わない。

(6) 図表について

○図表は本文中の適切な個所に配置するとともに、原稿とは別ファイルでそのソースファイル(電子媒体)を提出すること。

○図表は、そのまま縮小して掲載されるのでカメラレディで作成すること。

○図表番号は、下記のようにする。

例) 第1図の場合 → 図1

第2表の場合 → 表2

○図表のタイトルは必ず付ける。タイトルは、表の場合、表の上(左詰め)に、図の場合は図の下(中央)に付ける。図表の注、出典、原資料等は図表の下(左詰め)に付ける。

○本文中、図表の解説に当たる箇所にも必ず(図○)などのように、明示する。

(7) 引用について

○著作権法上の問題となるので、本文中、引用箇所はそれと分かるよう必ず明示し、出典を記載すること。

(8) 技術的問題について

○本文は「である」調で、文章はなるべく短く、できるだけ平易な表現にする。

○ハードコピー原稿を元に組版するので、原稿に示された書体以外を用いる場合は、適宜、赤字でその指定をすること(上付き、イタリック等)。

(9) その他

○段落の体裁や句読点(。、.、)等は製版段階で統一するため、原稿提出時に気にする必要はありません。

以上

2017年8月9日
研究科運営小委員会